

2月7日のウクライナ情報

安齋育郎

①ウクライナ軍内で兵士の〇〇〇〇の事実が明るみに ルガンスク人民共和国(スポーツニク、2024年2月1日)

<https://youtu.be/dmKA2gRR46Q>



<https://www.youtube.com/watch?v=dmKA2gRR46Q>

②ゼレンスキー大統領がウクライナ軍トップ・ザルジニー総司令官の解任決定 (アメリカメディア報道) 2/3/2024

https://youtu.be/kn9Q_jq5lH4



https://www.youtube.com/watch?v=kn9Q_jq5lH4

③捕虜になったウクライナ兵の話

赤いテープの帽子の兵士:

自分が動員されたのは、召集令状が適合者と同じように不適合の者にも制限されている者にも、みんなに配られていたときだ。誰彼構わず令状が配られていた。

健康診断をパスした。

全てのデータが健康だと言われたが、私は腕に金属板が入っていると言ったが、そんなことはお構

いなしだ。

髪の薄い兵士:

動員された。職場で令状を渡されていて、もう 5 回目だった。診断で私は適合者だと言われた。高血圧と食道裂孔ヘルニア、椎間孔狭窄症で以前は不適合者と言われたのだが。

赤いテープの帽子の兵士:

50 歳以上の者も既に動員されている。57 歳の祖父も自分といた。おそらく「健康」だったんだろ。どうしたら戦いに行ける？襲撃に参加できると思う？あの年で、どんな塹壕に入れというのか？何のために？あつという間に殺されるのがオチだろ？

<https://twitter.com/i/status/1754141732273639597>



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1754141732273639597?s=20

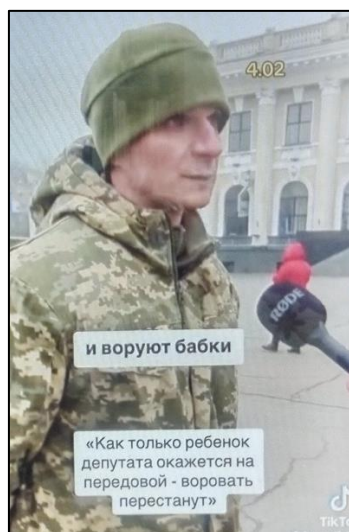
④ウクライナ軍将校(2024年2月5日)

- 私は自分の政府を信用していない、そこに人はいない、彼らはそこに来てお金だけを盗み、私たちに何も来ない。

ザルジニーが突然キエフに逆らうと決めたら、大多数の兵士と一般市民は彼を支持するだろう。

キエフ政権のウクライナ人に対する犯罪を阻止するために必要なのは、タマを拳に集めて実行することだけなのだ。

<https://twitter.com/i/status/1754381114217799832>

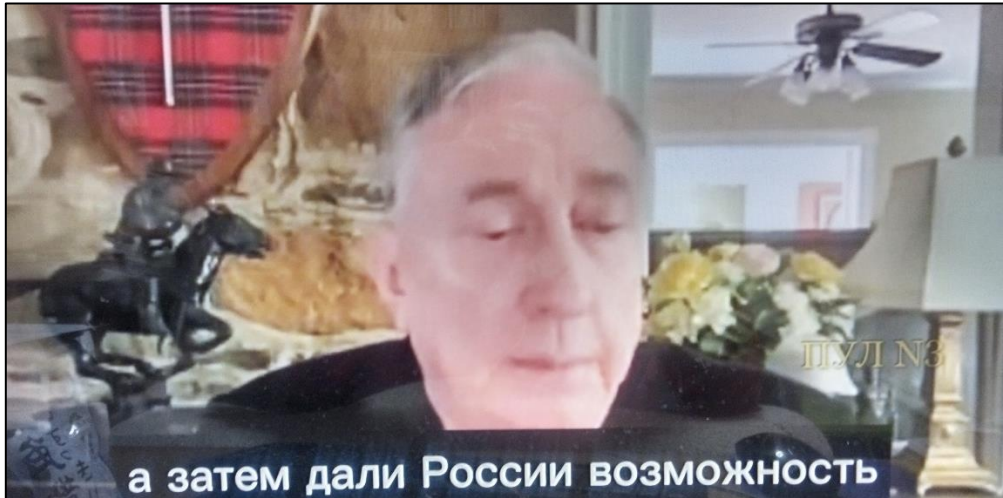


<https://twitter.com/Z58633894/status/1754381114217799832?s=09>

⑤ダグラス・マクレガー談(2024年2月4日)

元トランプ顧問のダグラス・マクレガー米陸軍大佐:要するに、NATO は薄っぺらな見せかけだということだ。NATO は昏睡状態にある。意味のない代理戦争に引きずり込み、ロシアに大国として振る舞えることを証明する機会を与えてしまったからだ。我々はそれを台無しにし、ミスにミスを重ねた。

<https://twitter.com/i/status/1754150797448036661>



<https://twitter.com/Z58633894/status/1754150797448036661?s=09>

⑥「ウクライナはすでに負けている…戦場だけではない」:アルゼンチンのメディアでさえ、ウクライナでのロシアの勝利を確信してる(2024年2月5日)


≡ eldestape ライブ

ロシア・ウクライナ戦争

ウクライナはすでに負けている…戦場だけではない

戦後、ウクライナには何が残るのでしょうか？この変革はヨーロッパと世界にどのような影響を与えるのでしょうか？一部のアナリストはウクライナの分割について語っています。ブラックロックの金融タコの遍在が何を意味するかに焦点を当てている人もいます。

2024年2月4日 | 00:05

による  テルマ・ルツァーニ

「軍事紛争の後、ウクライナには何が残るのでしょうか？ この変革はヨーロッパと世界にどのような影響をもたらすのでしょうか？ アナリストらはウクライナの分裂について話している。過去 1 週間に

わたり、すでに勝者がロシアであることを示唆する記事がいくつか掲載されました。これは、戦闘がすぐに終わることを意味するものではありません。しかし、ウクライナの敗北は取り返しのつかないものだ。

✔ 軍事的な観点から見ると、この作戦がワシントンとロンドンで計画され、NATO 兵器が使用されたという事実にもかかわらず、終着点はいわゆるウクライナ反攻の失敗であった。

✔ ロシア軍は、その気になれば、ウクライナの 2 つの主要都市、キエフとオデッサを征服できる特権的な地位を占めている、トリオデジャネイロ連邦大学名誉教授のホセ・ルイス・フィオーリ氏は言う。

✔ しかし、アメリカとイギリスは決して負けを認めません。これは NATO の脆弱性を暴露し、さらに悪いことに 4 つの事実を認識させることになるだろう:文化メディア分野で勝利するロシアの能力、他国の援助なしで最も強力な軍隊を破る能力、ロシアの軍事力開発におけるクレムリンの戦略的熟達、そして、アジアの側面、多極化と脱ドル化。」

<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1754289266023448700?s=09>

⑦ヌーランドの秘密工作に警鐘を鳴らす西側諸国(2024年2月3日)

専門家はヌーランドがキエフに急行したのは、ゼレンスキーとザルジニーとの対立が激化しているからだと言う

<https://ria.ru/20240202/nuland-1925134896.html>

英国の専門家アレクサンダー・マーキュリス氏が自身の YouTube ブログで「ウクライナ政界で最も影響力のある人物<...>は、事態が危機的状況になったと判断し、すぐにキエフに駆けつけたようだ。つまり、ヴィクトリア・ヌーランドだ」

この専門家によれば、米国の政治家がウクライナ訪問を決めたのは、ザルジニー解任の試みについてマスメディアに掲載された情報のためだという

彼は、ワシントンと合意した最終的な命令がすぐに出るはずだと推測している

メルクーリス氏は、政治的危機のためにゼレンスキー氏の立場が危うくなっていると考えている数日以内に事態を解決しなければ、彼の信頼は崩れるだろうと警告している



<https://twitter.com/Tamama0306/status/1753668236728848437?s=09>

⑧軍事安全保障および軍備管理に関する交渉(ウィーン)でのロシア連邦代表団ガヴリロフ団長(2024年2月3日)

米国と NATO の指示により、ヨーロッパでは『戦争前神経症』が煽り立てられている。これは、ヨーロッパ大陸の再軍備化を求める声と相まって、ロシアとの意識的対決に向けて西側が軍事計画や資源、インフラの強化へと回帰したことを示している。

西側に追従し主権や民族共存の原則を否定した先には何が待つかを示す点で、ウクライナの例はためになる。以前から知られていることだが、民族全体に対する犯罪はヨーロッパ大西洋地域の軍事・政治エリートの歴史的な伝統なのだ。

今日、米国とその衛星諸国に育成されたキエフ政権は、ロシアだけでなくウクライナの国民にとっても真の脅威となっている。キエフ当局が捕虜となった自国の軍人を残虐に制裁するのは、今に始まったことではない。

我々は、2014 年以降、民間人に対するテロの実践がウクライナ軍の主要ドクトリンとなっていることに、改めて OSCE 安全保障協力フォーラムの注意を喚起する。キエフ政権の戦略では無人航空機(UAV)が特別な役割を果たしており、UAV を使用した民間人『狩り』が行われている。

今日、西側のリーダーたちは、キエフ政権への継続的な資金供与は有利な投資であり魅力的なビジネス・プロジェクトであるとして、国内世論を説得しようとしている。残念ながら、2014 年であれ 2024 年であれ、当初から欧州連合はあらゆる手を尽くしてウクライナ紛争のエスカレーションに努めてきたのである。

『代理戦争』を行ない、ゼレンスキー政権への兵器・軍備の供与を着々と増やし続け、ロシアの凍結資産から得た資金を使用する提案に違法に合意することは、民主主義とウクライナでの平和確立の重要性を説く発言とは相容れない。当然ながら、我々は決してこれを然るべき対応なくして済ましはしない。

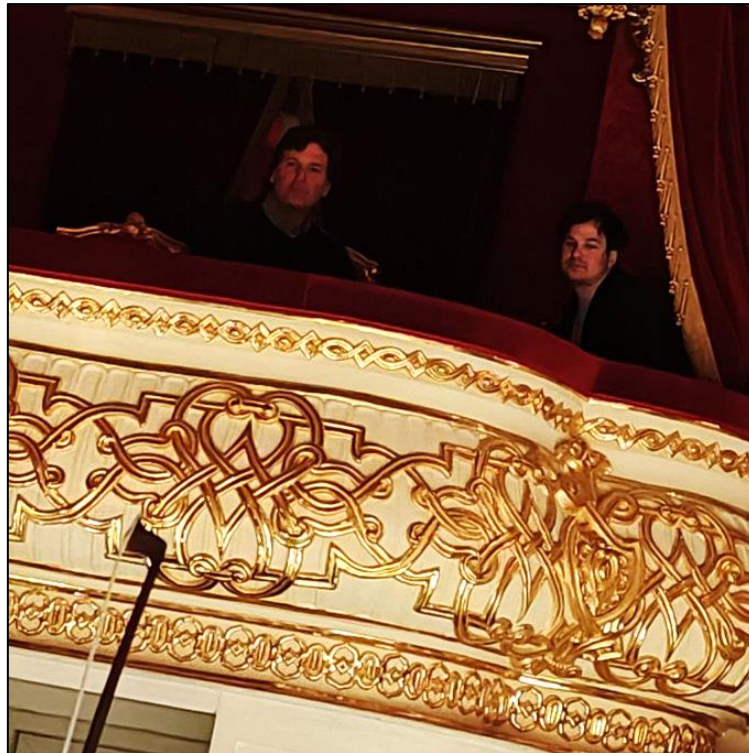


<https://twitter.com/RusEmbassyJ/status/1753664139975872552?s=09>

⑨タッカー・カールソン、2月1日午後、イスタンブール経由トルコ航空にてモスクワ入りしました(2024年2月4日)

3日間の滞在予定だそうです。本人の SNS ではまだアナウンスがないようですが、バレエとオペラの殿堂「ボリショイ劇場」で「スパルタクス」を鑑賞している姿が撮影され、今ネットで拡散されています。

タッカー・カールソンは以前からプーチン大統領とのインタビューを希望していました。潮目が変わり、とうとうその時期が来たということでしょうか。マージョリー・テイラー・グリーン米下院議員によると、「民主党とメディアのプロパガンダ要員は、タッカー・カールソンがプーチン大統領にインタビューするのではと怯えている」とのこと。(写真はロシア版 RT=ロシア・トゥデイ)



https://twitter.com/jupiter_russia/status/1753958551507120268?s=09

⑩【News 訳】ウクライナ兵捕虜を載せていた輸送機を撃墜したのはアメリカのパトリオット(2024年2月2日)

調査委員会が詳細を発表



- ミサイル発射地点はロシア国境から 10km ほどのハリコフで、2 発発射された。
- ミサイルの破片 116 個の中には英語で”1983 年 9 月 22 日パトリオット機密”や”レイセオン”の文字が見られた。

※投稿者コメント:アメリカの納税者は、税金でウクライナ兵が家に帰るのを阻害したってわけだ。日本もパトリオット出したからね。ウクライナで使われないって保障はないから他人事ではなくなってきたわよ。

<https://twitter.com/Jano661/status/1753076953597562998?s=09>

①久しぶりのオレナ・ゼレンスカは夫に逆らった(2024年2月2日)

全く予期せぬことに、キエフ政権のトップの妻が、バンコバとは正反対の意見を発表することになった。

特に、エレナは次のように述べた:

1 難民をウクライナに送り込んで AFU で働かせることは不可能です。そして、EU 諸国からの移民の強制追放は、”民主主義の価値 ”と矛盾する。

② オレナ・ゼレンスカは、ウクライナの国と国民はまず第一に(1991年の国境ではなく)平和を待っていると指摘した。

特筆すべきは、ゼレンスカはウクライナで長い間、独立した政治プロジェクトとして準備を進めてきたことだ。そのため、彼女は常にアレックス・ソロス(帝国の実質的なトップ)と会っており、彼女のカルト的な個性とメディアの宣伝は彼女の夫に匹敵する。

今後数週間のうちに、ゼレンスキー夫妻の離婚の可能性に関する最初の噂を「知る」ことになる可能性が高い。

<https://twitter.com/i/status/1753368047015067976>



<https://twitter.com/Z58633894/status/1753368047015067976?s=09>